田面木小

進んで伝え合い、主体的に学ぶ子の育成

（３年計画の２年次）

校長　松本　清和

１　研究主題について

本校では、教育目標の「よく聞き考える子」及び、努力目標の「よく聞き、しっかり考えて課題に取り組む」を受け、相手の考えを聞き、自分の考えを深めることができる児童の育成を目指している。

昨年度は、３年次計画の１年目として、思考の対立や葛藤、疑問をもたせるための課題設定や発問を工夫したり、自分の考えを表現し合うための場の設定や支援を工夫したりすることによって、児童が意欲的に課題解決に向かい、伝え合う力を高めるための授業づくりを研究した。

学習課題設定のための「しかけ」を工夫し、様々な方法で児童の思考を促したり揺さぶりをかけたりしたことで、児童が積極的に課題に取り組み、自ら課題を考えたり自力で解決したいという思いをもったりすることができるようになった。また、考えを伝え合う場として、事前に自分の考えを書くことやペアで確認すること、少人数で意見を共有する時間を設けたことで、児童に安心感が生まれ、自信をもって発言するようになってきた。さらに、児童から出された意見を視覚化したことで考えが整理され、より活発な話合いにつなげることもできた。その一方で、自分の考えと相手の考えを比べながら聞く力が不十分であることや、主体的に取り組む態度が見られないなどの課題が挙げられた。主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童自らが学習について振り返り、次の学習につなげるような授業づくりが必要である。

以上のような理由から、今年度は、自分の意見を伝えるだけでなく、自分と相手の考えの違いに着目して聞き、それに対して意見を伝えることができるようにするための手立てや指導について研究する。さらに、振り返りの場を設定し、その視点を工夫することで、主体的に学習に向かう態度を育てる授業づくりを研究することとした。

２　研究のねらい

考えを進んで伝え合いながら自己を振り返り、主体的に学ぶことができる児童を育てるための指導のあり方を明らかにする。

３　研究仮説

考えを伝え合うための場や手立て、振り返りの場や内容を工夫することによって、児童が自らの課題と向き合い、主体的に課題解決に取り組む力が高められると考える。

４　研究内容

(1) 児童が自分の考えと友達の考えを比べながら話したり聞いたりすることができるための場の設定や指導の在り方について、実践を通して明らかにする。

(2) 主体的に学習に向かう態度を育てるための振り返りの場の設定や内容、視点等の在り方について、実践を通して明らかにする。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	授　業　研　究
6	7	提案授業　第２学年　道徳科「ぐみの木と小鳥」 ２年１組　授業者　教諭　近藤　純子
7	7	第１回授業研究（要請訪問）第３学年 外国語活動「How many?数えて遊ぼう」 授業者　教諭　　小林　望 助言者　八戸市教育委員会　教育指導課　日向端　聖　副参事兼主任指導主事
１０	１８	第２回研究授業（要請訪問）第４学年　算数科「面積」 授業者　教諭　　中平　珠莉 助言者　八戸市総合教育センター　小向　一樹　主任指導主事
１１	1	第３回研究授業　あすなろ学級１組　自立活動「自分や友達のいいところを見つけよう」 授業者　教諭　　田村　久美子
１１	2	下学年ブロック参観授業　第１学年　算数科「たしざんのかあど」 授業者　教諭　　坂本　明希子
１１	２４	上学年ブロック参観授業　第４学年　道徳科「ブラジルからの転入生」 授業者　教諭　　清水　咲良
１２	7	下学年ブロック参観授業　第１学年　音楽科「だしたいおとをみつけよう 授業者　教諭　　荒井　美佳
１２	8	上学年ブロック参観授業　第５学年　体育科「とび箱運動」 授業者　講師　　野邊地　宏大
１２	１４	特別支援ブロック参観授業 おおぞら学級　自立活動「ていねいな言葉づかいで話そう」 授業者　講師　　十文字　みずほ
１２	１９	上学年ブロック参観授業　第６学年　体育科（保健領域）「生活習慣病の予防」 授業者　教諭　　山下　淳
１２	２１	特別支援ブロック参観授業　あすなろ学級２組　特別活動「友達とのよりよい関わり方を考えよう」 授業者　講師　　越後　順子

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等	
5	1	救命救急	講師　養護教諭　　中村　睦恵
6	２８	保護者への対応	講師　青森県総合学校教育センター 教育相談課　葛西　励　指導主事
8	２３	対話場面における一人一台端末の活用	講師　八戸市総合教育センター 小向　一樹　主任指導主事
１１	２９	いじめへの対応	講師　青森県総合学校教育センター 教育相談課　佐藤　幸広　指導主事

６　研究の成果

(1)　意見を比較して捉えさせるために、板書を工夫したり一人一台端末を活用したりすることにより、立場を明確にし共通点や相違点を意識して聞くことができるようになった。また、話型を示し少人数で話し合う場を設定したことで、友達の考えを受容的に聞くことができた。

(2)　視点を与えて振り返らせることにより、自分自身の学習の様子について気付いたり、これからの学習への展望をもったりと、主体的に学習に向かう態度が育ってきた。

７　研究の課題

主体的に学ぶ態度を育てるために、対話を通して考えを広げたり深めたりすることができる指導の在り方について、さらに研究を深めていく必要がある。また、学習内容に応じた振り返りの視点の在り方や、振り返りを生かした授業展開の工夫についても研究内容として取り上げていきたい。

（記入者　　近藤　純子）